

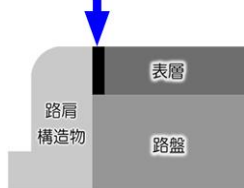
NETIS登録番号		技術名称		防草材 ポーソーシールT(新設・打換え工事用)・ポーソーシールTC(天端貼付タイプ)・Hタイプ(加熱注入タイプ)		
QS-980223-V		副題		舗装を雑草から守る継目用成形接合材・継目用充填接合材		
分類1	道路維持修繕工	道路除草工	防草工	その他	キーワード:安全・安心、公共工事の品質確保・向上、景観	
分類2						
開発目標		安全性の向上、周辺環境への影響抑制、品質の向上				
技術の位置付け	<input type="checkbox"/> 推奨技術	<input type="checkbox"/> 準推奨技術	<input type="checkbox"/> 活用促進技術	<input checked="" type="checkbox"/> 設計比較対象技術	<input checked="" type="checkbox"/> 少実績優良技術	
特許	<input type="checkbox"/> 有り (特許番号:)				<input checked="" type="checkbox"/> なし	
技術賞、審査証明等	<input type="checkbox"/> ものづくり日本大賞 <input type="checkbox"/> 国土技術開発賞 <input type="checkbox"/> 学会賞 <input type="checkbox"/> 建設技術審査証明					
問合せ先	会社名	シンレキ工業株式会社			TEL	0968-53-3416
	住所	〒861-0814 熊本県玉名郡南関町肥猪4001-3			E-MAIL	kyushu@shinreki.co.jp
	担当者	坂本州総				
実績件数	国土交通省		その他の公共機関		民間等	
	H25.7.9現在 508 件		510 件		50 件	

技術概要: (300字以内)

舗装と構造物との境界部に発生する雑草を防止する技術である。ポーソーシールTは、舗装を施工するときに構造物の側面に貼り付けておき、舗装と構造物の間に目地材として設置されるように使用する。ポーソーシールTCは、舗装と構造物の間に発生した雑草およびその根をできるだけ除去した後に、上から貼り付けて再び雑草が発生することを防止するために使用される。また、忌避剤を含んだブチルゴムの上下の間に芯材を挟むことにより、下からの雑草繁殖を抑制する。ポーソーシールHは、舗装と構造物の間に発生した雑草およびその根をできるだけ除去した後に、加熱溶解させたものを注入して再び雑草が発生することを防止するために使用される。

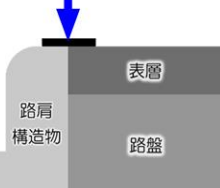
○製品について○

ポーソーシールT
(新設・打ち替え用)

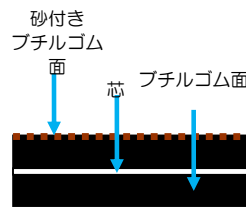


形状: テープ状
寸法: 30 mm幅 × 5 mm厚 × 10 m巻

ポーソーシールTC
(天端貼り付けタイプ)

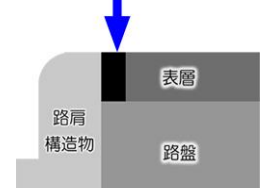


形状: テープ状
寸法: 50, 70, 100 mm幅
× 3 mm厚 × 10 mm巻



TC断面図

ポーソーシールH
(加熱注入用)



形状: ブロック状
(5 kg × 2)

○期待される効果○

- ・舗装と構造物の目地部に主に使用され、雑草の根による舗装の破壊を防ぐ。
- ・雑草の除去作業の低減により、維持管理費の節約効果がある。
- ・年間を通じて雑草による視認性の悪化を防止でき、ドライバーおよび歩行者に安全性に寄与する。

○手順○

- ・ポーソーシールT
アスファルト混合物を舗装する前に、コンクリート構造物のプライマーであるポーソボンドを塗布し、乾燥後その面にポーソーシールTを圧着し、貼付完了後アスファルト混合物を舗装する。
- ・ポーソーシールTC
既設舗装のアスファルト混合物とコンクリート構造物の目地部に発生している雑草を除去した後、採用するポーソーシールTCの幅に合わせて、プライマーであるポーソボンドを塗布し、乾燥後ポーソーシールTCを貼り付ける。
- ・ポーソーシールH
舗装体を数cmの幅で切り取り、雑草の根を除去した後、プライマーであるBSプライマーHを塗布し、200℃付近で加熱溶解させたポーソーシールHを流し込み注入する。

○施工の留意点○

①設計時

- ・舗装を新設する場合、将来舗装と構造物の間に雑草が発生しないようにするためには、ポーソーシールTの採用が有効である。
- ・ポーソーシールTCには幅が5cm、7cm、10cmの製品があり、採用するとき設置箇所の既設表面の損傷程度によって使用するポーソーシールTCを決める。
- ・既設道路の防草対策において、雑草の発生が顕著で、根の除去が困難な場合は、3cm程度の幅で切込みを入れ舗装体と根を除去すると良い。その跡にポーソーシールHを加熱注入する。

②施工時

- ・ポーソーシールT
舗装前に構造物の側面に貼り付けるが、舗装後にポーソーシールTがはみ出さないように設置高さに注意が必要である。もちろん設置面は乾燥状態で土等の付着物があってはならない。
- ・ポーソーシールTC
雑草およびその根を除去した跡なので、隙間が多いときは乾燥モルタルセメント等で充填することが推奨される。
- ・ポーソーシールH
雑草の発生が顕著で根を除去した際に土で汚れるため、プライマー散布前に十分な清掃が必要である。
- ・その他注意事項
また、ポーソーシールT、TCを施工するとき、プライマーであるポーソボンドの使用量は規定された量を使用しなければならない。

③維持管理等

- ・施工後の維持管理は特に必要ないが、ポーソーシールTCの場合、局部的に損傷した場合はその部分を除去して貼り直せば良い。
- ・ポーソーシールT、ポーソーシールTCは、1巻10mの荷姿で、ダンボール箱に所定量梱包されているので、貯蔵場所は平坦で雨および日光が当たらない場所が望ましい。